

## viエディタの特徴

- ・スクリーン・エディタである。
- ・ホーム・ポジションに指を置いたまま、全ての操作ができる。

## viエディタの開始

viコマンドの引数として作成（または修正）したいファイル名を指定するとエディタが起動され、画面がクリアされて左端に~が出力される。

~は、この行が未入力の状態であることを示す。

**\$ vi ファイル名 <CR>**

## viエディタでの編集

viを使用しているときには、次の2つの状態がある。

キーボードから入力した文字は、状態（モード）によって、viのコマンドとして解釈されるか、またはファイルのテキストとして受け取られる。

### << 操作モード >>

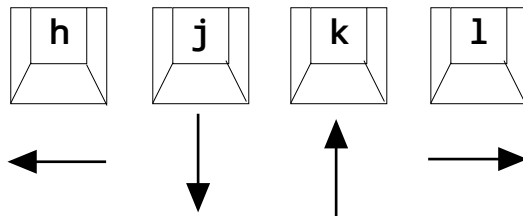
#### ア. コマンド・モード（入力が端末に表示されない）

コマンドを入力する状態であり、利用者はエディタに対するコマンド（指令）を入力する。エディタは、利用者の入力に対応した作業を行う。エディタを呼び出した直後はこのモードになっている。

#### イ. テキスト入力モード（入力が端末に表示される）

テキストを入力する状態であり、コマンド・モードにおいて、テキスト（文字列）を入力するようなコマンドが与えられ、それがエディタによって受け付けられると自動的に入るモードである。テキスト入力モードになった後の入力は、編集指示ではなく、すべてデータとして受け付けられる。

カーソル移動（キー配列との対応）



### 【Gコマンド】

特定の行へ移動したいときに使用する

行番号G . . . . . 指定した行へ移動

G . . . . . テキストの最終行へ移動

### 【テキスト挿入コマンド】

挿入コマンドはカーソルの位置によって使い分ける。

O（英大文字）. . . . . 上に行を挿入

o（英小文字）. . . . . 下に行を挿入

i . . . . . 前に文字を挿入

a . . . . . 後ろに文字を挿入

< <操作> >

カーソル移動      挿入コマンド入力      内容の入力      <ESC>の入力

カーソルを希望位置に移動し、コマンドを入力する。テキスト入力モードになるので内容を入力し終わったら<ESC>を押す。

#### 【テキスト削除コマンド】

削除コマンドには、一文字、一単語、一行を削除するコマンドがある。削除したい文字（列）の位置にカーソルを移動し、コマンドを入力する。削除コマンドはテキストの入力を伴わないので<ESC>は必要ない。

**x**      . . . . .      一文字削除  
**dw**    . . . . .      一単語削除  
**dd**    . . . . .      一行削除

#### 【取り消しコマンド】

直前の変更コマンドは、**u** ( u n d o ) コマンドによって実行前の状態に戻すことができる。

#### 【文字列検索コマンド】

文字列検索とは、指定した文字列を探して、カーソルを移動する。

**/文字列**    . . . . .      ファイルの下方向に文字列を検索  
**?文字列**    . . . . .      ファイルの上方向に文字列を検索

同じ文字列がファイル中に複数個ある場合は、次のコマンドにより繰り返し検索できる。

**n**      . . . . .      順方向  
**N**      . . . . .      逆方向

#### ファイル操作に関するコマンド

##### 【終了コマンド】

ただし、それまでの編集を無効にして **v i** を終了させたい場合は、**q ( q u i t )** コマンドに **!** ( 強制実行を表す ) をつけ、**q !** としなければならない。

**:q**      <CR>    . . . . .      v i を終了させる。  
**:q!**    <CR>    . . . . .      編集を無効にして v i を終了させる。

##### 【書き込みコマンド】

編集した内容をファイルへ書き込む。

wの後ろにファイル名を指定した場合は、指定したファイルに書き込まれる。

ただし、指定したファイルが存在するときは **!** をつけ、**w !** としなければならない。

**:w file1**    <CR>  
         . . . . .      現在編集中のバッファの内容が、file1に書き込まれる。  
**:w! file1**    <CR>  
         . . . . .      file1に内容が上書きされる。